

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	人間の尊厳と自立		必修	1年通年	15コマ・30時間
担当教員	渡邊義昭	背景	専門学校・短期大学・大学等教育歴25年		
受講ルール	共通ルール				
授業形態	講義	実務家教員 でない			
受講条件	介護福祉科1年生				
教科書等	福祉小六法／中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 1巻 人間の理解				
授業概要 人間の尊厳と自立と、介護における尊厳の保持・自立支援全体像を理解する。					
狙いと到達目標 「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。					
授業において実務経験をどのように生かすか 介護福祉施設研修講師の経験を通して、介護現場に求められる規範や価値判断を伝えていく。					
授業計画・内容					
1	人間理解と尊厳について、「人間」の多面的理解について概論的理解を図る。				
2	人間理解と尊厳における、尊厳の歴史的文化的背景の理解をとおして、現代につながる社会的意義や意味を理解する。				
3	人間理解と尊厳における、現代社会の背景と倫理的課題についての理解を深める、複合的な社会問題やダイバーシティの視点で考察する。				
4	人間理解と尊厳における、自立と自律の考え方の相違について、事例を通して理解を深める。				
5	人権と尊厳について、基本的人権の基礎的理解を深めるため、国連憲章や世界人権宣言、日本国憲法など法制度の考え方について学ぶ。				
6	人権と尊厳について、歴史的文化的背景の理解のため、差別や偏見の歴史、近現代の事例を基に学ぶ。				
7	人間理解と尊厳における、事例検討から尊厳と自立についての理解を深めるため、高齢者・障害者・児童・ジェンダーの視点で考える。				
8	人権と尊厳について、現代社会の背景と倫理的課題についての理解を深めるために、これまでの学びを振り返る。				
9	人権と尊厳について、現代社会における権利擁護について成年後見制度を中心に、後見の在り方について学ぶ。				
10	人権と尊厳について、介護におけるアドボカシーを理解するため、高齢者虐待事例を通して介護福祉士としての規範を学ぶ。				
11	人権と尊厳について、介護における人権尊重についての理解を深めるため、介護の事例から介護福祉士としての規範を学ぶ。				
12	人権と尊厳について、介護における身体的な自立支援に向けた意義や意味を改めて学ぶ。				
13	人権と尊厳について、介護における精神的な自立支援に向けた意義や意味を改めて学ぶ。				
14	人権と尊厳について、介護における社会的な自立支援について、その意味や意義を振り返り、まとめとする。				
15	人間の尊厳と自立に関する試験の実施。				
評価方法	授業内の課題40%、科目認定試験結果60%として、60点以上で合格。				
自由記述 (メッセージ)	現代社会において、改めて人間にとっての尊厳とはにかを学ぶ科目です。基盤となる倫理的視点の基盤を構築してもらいたいと考えています。				

実務家教員

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	人間関係とコミュニケーション		必修	1年前期	15コマ・30時間
担当教員	品川智則	背景	介護福祉士職歴5年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	福祉小六法／中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 1巻 人間の理解				
授業概要	<p>人間関係の形成、コミュニケーション及び、わかりやすい説明や的確な記録・記述を行うための基礎を理解する。なお、本授業は集中授業として実施する。</p>				
狙いと到達目標	<p>介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について理解し、自分の言葉で表現できる。          介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養うための学習とする。アカウンタビリティ(説明責任)や根拠に基づく介護の実践のための、わかりやすい説明や的確な記録・記述を行う能力を養う。</p>				
授業において実務経験をどのように生かすか	<p>現場で培ってきたチームアプローチの考え方を、伝えていきたい。          さらに、多様な価値観を受け入れチームとして成熟していくためには、自己覚知の重要性についても伝えていきたい。</p>				
授業計画・内容					
1	科目の説明 介護におけるコミュニケーション 介護におけるコミュニケーションの対象(意義と目的、役割)				
2	援助関係とコミュニケーション				
3	自己開示について ～利用者との信頼関係～				
4	山中湖キャンプオリエンテーション 役割を決めるグループワーク				
5	グループでの事前準備①				
6	グループでの事前準備②				
7	グループでの事前準備③				
8	山中湖集中授業				
9	山中湖集中授業				
10	山中湖集中授業				
11	山中湖集中授業				
12	山中湖集中授業				
13	山中湖集中授業				
14	山中湖集中授業				
15	集中授業ふり返りとまとめ				
評価方法	<p>授業の平常点(出席、グループワークへの取り組み)60点          授業内レポート40点において60点以上で合格</p>				
自由記述 (メッセージ)	<p>この科目は、東京YMCA山中湖キャンプ場で宿泊が伴う授業になっています。          一緒に、2泊3日の時間を有意義なものにしていきましょう</p>				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	社会の理解 I		必修	1年前期	15コマ・30時間
担当教員	渡邊義昭	背景	専門学校・短期大学・大学等教育歴25年		
授業形態	共通ルール				
受講ルール	講義	実務家教員 でない			
受講条件	介護福祉科1年生				
教科書等	福祉小六法／中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 2巻 社会の理解				
<b>授業概要</b> 生活と福祉の全体像の理解及び社会保障制度について、家庭生活、家族、地域、社会、組織、やライフスタイルの変化など社会構造の変容について学ぶ。また、日本の社会保障制度のしくみの基礎的理解、現代社会における社会保障制度について学ぶ。					
<b>狙いと到達目標</b> 介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度、施策についての基礎的な知識を養う。個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程や、わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解することを到達目標とする。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 東京都介護福祉士会との高齢者に関する調査研究で得た知見から、社会保障制度の現況について伝えることができる。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	生活と福祉の視点から、家庭生活の基本機能 家庭機能の基礎的理解を深める。				
2	生活と福祉の視点から、家族 家族の概念と家族機能の時代的変遷について学ぶ。				
3	生活と福祉の視点から、家族 家族の機能や役割の現代的課題について学ぶ。				
4	生活と福祉の視点から、地域 地域およびコミュニティの基礎的理解を深める。				
5	生活と福祉の視点から、地域 都市化・過疎化と地域社会の関係について学ぶ。				
6	生活と福祉の視点から、社会・組織 社会、組織の概念および役割と組織化、エンパワメントについて学ぶ。				
7	社会保障制度の基本的考え方について 社会保障の概念、意義、理念を学ぶ。				
8	日本の社会保障制度の発達、憲法と社会保障制度の基本的考え方について学ぶ。				
9	日本の社会保障制度の発達、戦後の社会保障制度の発達(年金・保険、法体制)を学ぶ。				
10	日本の社会保障制度の発達、社会福祉基礎構造改革と地域福祉について学ぶ。				
11	日本の社会保障制度のしくみの基礎的理解、社会保障の財源について学ぶ。				
12	日本の社会保障制度のしくみの基礎的理解、保険制度の理解について学ぶ。				
13	現代社会における社会保障制度を基盤とした、少子高齢化と人口動態の推移を理解する。				
14	現代社会における社会保障制度、社会保障の給付と負担、持続的な社会保障制度を理解する。				
15	生活と福祉、社会保障制度に関する試験の実施				
評価方法	授業内の課題40%、科目認定試験結果60%として、60点以上で合格。				
自由記述 (メッセージ)	私たちの生活を取り巻く、社会環境の現状と制度のしくみを理解することで、介護福祉士としての基盤を構築してもらいたいと考えています。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	社会の理解Ⅱ		必修	1年後期	15コマ・30時間
担当教員	渡邊義昭	背景	専門学校・短期大学・大学等教育歴25年		
授業形態	共通ルール				
受講ルール	講義	実務家教員 でない			
受講条件	介護福祉科1年生				
教科書等	福祉小六法／中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 2巻 社会の理解				
授業概要					
<p>介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度、施策について介護保険や障害者総合支援法を中心に、基礎的な知識を養う。また、利用者の権利擁護の視点、職業倫理観を養う。介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者自立支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する学習とする。また、介護実践に必要なとされる観点から、個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識を習得する。</p>					
狙いと到達目標					
<p>社会保障制度における介護保険制度創設の背景及び目的や動向、仕組みについて基礎的理解を深め、介護保険制度における組織、団体の役割や専門職としての役割について学ぶ。障害者自立支援制度における創設の背景及び目的や動向、仕組みについて基礎的理解を深め、障害者自立支援制度における組織、団体の役割や専門職としての役割について学ぶ。介護実践に関連する諸制度として、個人情報保護、成年後見制度、高齢者虐待防止、生活保護制度など権利擁護の理解を深める。</p>					
授業において実務経験をどのように生かすか					
東京都介護福祉士会との高齢者に関する調査研究で得た知見から、社会保障制度の現況について伝えることができる。					
授業計画・内容					
1	介護保険制度創設の背景および目的 歴史的経緯と創設時の課題について学ぶ。				
2	介護保険制度の動向およびしくみの基礎的理解 介護保険におけるサービス体制を学ぶ。				
3	介護保険制度の動向およびしくみの基礎的理解 介護保険におけるサービス利用について学ぶ。				
4	介護保険制度の動向およびしくみの基礎的理解 介護保険の運営実施体制について学ぶ。				
5	障害者自立支援法制度創設の背景および目的 歴史的経緯と創設時の課題について学ぶ。				
6	障害者総合支援法制度のしくみの基礎的理解 障害者総合支援法の制度とサービス体系について学ぶ。				
7	障害者総合支援法制度における組織、団体機能と役割・国および地方公共団体等の役割について学ぶ。				
8	介護実践に関連する諸制度から、個人の情報を守る制度の概要 個人情報保護、成年後見制度など権利擁護のしくみについて学ぶ。				
9	介護実践に関連する諸制度から、保健医療福祉に関する諸施策概要・後期高齢者医療制度について学ぶ。				
10	介護実践に関連する諸制度から、保健医療福祉に関する諸施策概要・生活習慣病および健康づくりのための諸施策について学ぶ。				
11	介護実践に関連する諸制度から、保健医療福祉に関する諸施策概要・結核、感染症への対策について学ぶ。				
12	介護実践に関連する諸制度から、保健医療福祉に関する諸施策概要・難病対策、HIV/エイズ予防対策について学ぶ。				
13	介護実践に関連する諸制度から、保健医療福祉に関する諸施策概要・医療関係者および施設に関する法規について学ぶ。				
14	介護実践に関連する諸制度から、生活保護制度の概要・生活扶助、介護扶助について学ぶ。				
15	介護保険制度、障害者自立支援制度、介護実践に関連する諸制度、に関する試験の実施。				
評価方法	授業の平常点、科目認定試験結果、レポートにおいて60点以上で合格				
自由記述 (メッセージ)	私たちの生活を取り巻く、社会環境の現状と制度のしくみを理解することで、介護福祉士としての基盤を構築してもらいたいと考えています。				

実務家教員

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	手話		必修	1年通年	15コマ30時間
担当教員	加藤信子	背景	手話通訳者として28年間活動しています		
授業形態	演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	なし				
教科書等	豊かなコミュニケーション				
<p><b>授業概要</b></p> <p>障がい者差別解消法や手話言語条例が採択され、障がい者に対する合理的配慮が求められるようになってきました。聴覚障がいのある利用者に対し手話で対応できるように学びます。手話は大切なコミュニケーションツールですから丁寧な表現方法を学習していきます。</p>					
<p><b>狙いと到達目標</b></p> <p>聴覚障がい(者)について理解する→聴覚障がい者の体験を聞く。          簡単な手話を表現できるようにする→演習、表現練習をする。イメージをわかせる。          簡単な手話を読み取れるようにする→演習、会話をする。</p>					
<p><b>授業において実務経験をどのように生かすか</b></p> <p>介護施設に聴覚障がい者が入所・通所している場合、積極的に身振りや手話を使って会話をするように活かす。</p>					
<b>授業計画・内容</b>					
1	聴覚障がい者とコミュニケーション				
2	指文字を学習し、自分の名前を指文字で表現する				
3	名前の表現を学習し、自分の名前を手話と指文字で表現する				
4	地名の表現を学習し、自分の住所を手話で表現する				
5	人物の表現として父・母・等を学習し、自分の家族を手話で表現する				
6	数詞の表現を学習し、生年月日、年齢、金額等を手話で表現する				
7	趣味の表現を学習し、自分の趣味を手話で表現する				
8	職業の表現を学習し、介護関係の職種を手話で表現する				
9	2～8の学習を生かして自己紹介をする				
10	聴覚障がい者の体験談を聞く				
11	会話文 場面設定「施設」				
12	会話文 場面設定「相談」				
13	会話文 場面設定「デイサービス」				
14	手話の読み取り確認 表現練習				
15	手話の表現試験				
評価方法	課題 20% 開講中の読み取り小テスト 30% 開講中の表現テスト 50%				
自由記述 (メッセージ)	手話は身振りから発生してものも多いので、豊かなイメージを育み・積極的なコミュニケーションを取れるように心掛けてください。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	家政学実習(栄養・調理)		必修	2年通年	20コマ・40時間
担当教員	宮本千華子／小嶋秀子		背景	管理栄養士	
授業形態	演習	実務家教員 である			
受講ルール	エプロン 実習用帽子着用 上履き履き替え マニキュア禁止				
受講条件	特になし				
教科書等	プリント配布				
<b>授業概要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ バランスの良い献立をおさえる。</li> <li>・ 基本の調理をおさえる。</li> <li>・ 高齢者や障害者の健康度を考え、食べやすさ、嗜好を満足させる食事作りを学ぶ。</li> <li>・ 家政学実習を通して、家族・食に関する基本的な知識と技術が学習できる。</li> </ul>					
<b>狙いと到達目標</b> <p>食べることは生きるための基本である。食べることの大切さ、よりよく食べる方法を学習する。より良く食べるには、バランスの取れた食事が大切である。バランスの良い食事とは、栄養面だけでなく、味、温度、彩り、季節のバランスなどが考えられる。整った食事は健康面だけでなく、人の心をなごませ、幸せをもたらす。食べる人の健康度を考え、食べる人の身になって、食事の献立が作れるよう、基本的な知識と技術を修得する学習とする。合わせてチームワークの大切さを学習する。</p>					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> <p>本やテレビで伝えられない、料理の裏技やポイントをデモンストレーションの中で伝えたい。料理によっては、今までの料理の本に書いてある常識と違う方法で、手早くおいしく、栄養のぬけない作り方を伝えたい。 限られた時間での授業であるが、応用編を数多く伝えたい。 (例えば肉や魚、野菜などの素材の応用、調味料やドレッシングなどの応用)</p>					
<b>授業計画・内容</b>					
1,2	オリエンテーション 調理の基本 野菜の切方				
3,4	献立の立て方				
5,6	減塩食の工夫献立				
7,8	糖尿病の人の食事と予防				
9,10	消化の良い食事				
11,12	秋を取り入れた献立				
13,14	呑み込みやすい食事				
15,16	骨粗しょう症を予防するカルシウム料理				
17,18	手早く作る料理の工夫 班で献立作製				
19,20	自由献立作製				
評価方法	1 毎回の演習への取り組み方 2 当番出席状況 3 年度末の課題レポート				
自由記述 (メッセージ)	<p>「食は命(いのち)なり」                  食べることで体は作られる。「食」に関心をもち、毎日の食事を大切にして、健康な体を保ってほしい。健康であれば何にでも意欲的に取り組める。周りの人にも無理なく優しく接することができる。</p>				

実務家教員

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名・属性	いのち演習		必修	1年通年	10コマ・20時間
担当教員	外部講師(八尾勝)	背景	牧師、社会福祉士、介護福祉士、歌手、税理士など。		
授業形態	演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	なし				
<p><b>授業概要</b>                      現代社会での生き方やいのちのあり方を様々な切り口から考え学ぶ。さらに隣接領域での学びも取り入れる。</p>					
<p><b>狙いと到達目標</b>                      ライフサイクルや家族形態の変化とともに、人間の死が非日常的な出来事になっているが、介護福祉士はいのち(死)と向き合うことも本来業務の一つである。「死」と「生」「いのち」について考えることのできる学習を行う。また、いのちをめぐる諸相を通じて様々ないのちのあり方を学ぶ。人の生き方は、人それぞれに違うが、様々な生き方を学びながら、人生やいのちについて考える。人間とテクノロジーや動物との共生など、幅広い視点で物事を観る姿勢を養う。いのちについて介護福祉士を目指す者として考え、自分自身の生き方も考えることができることを目指す。同時に社会人として生きて行くに際しての主権者教育の側面も持たせる。</p>					
<p><b>授業において実務経験をどのように生かすか</b>                      それぞれの講師が、自らの体験、長年得てきた実際の社会の例などの情報を基に、社会で実際起きているリアリティーのある課題を題材に授業を展開する。</p>					
<b>授業計画・内容</b>					
1	カルトにとらわれる人々 渡辺 俊彦先生				
2	福祉の心 小野 実先生				
3	ホームレスのターミナル 吉水岳彦先生				
4	役職の卒業生 小泉昌広先生 望月太敦先生				
5	楽しい童謡レク&童謡療法 坂入姉妹 先生				
6	ロボット技術 小笹先生(サイバーダイン社)				
7	生活設計とリスク管理 鈴木先生(生命保険文化センター) 横田めぐみさんを学ぶ(八尾)				
8	介助犬の仕事 介助犬協会より派遣の講師				
9	租税教室(税金、年金) 税理士:三島裕美先生 年金機構:出納加代子先生				
10	四国遍路をする人たち 高下 梓				
評価方法	授業レポート等にて評価				
自由記述 (メッセージ)	様々な視点でから物事をとらえ、想像力をもって考えることが必要な授業です。固定観念にとらわれず、柔軟な姿勢で授業に参加しましょう。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	就職実践演習Ⅰ	必修	1年後期	15コマ・30時間	
担当教員	渡邊義昭	背景	専門学校・短期大学・大学等教育歴25年		
授業形態	共通ルール				
受講ルール	講義 + 演習	実務家教員 でない			
受講条件	介護福祉科1年生				
教科書等	ふくしのしごとがわかる本				
<b>授業概要</b> 福祉専門職としての就職の意義や、就職先としての福祉施設の見方について学び、専門職として求められる人材像について自己分析しながら理解を深めていく。また、就職の目的や意義を自分の言葉で表現できるようにする。					
<b>狙いと到達目標</b> 福祉専門職として必要な、職業観・就労観を身につけ、福祉専門職員としての考え方、意識を高める。また、社会人としての基盤となる教養を身につけ、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を実践的に身につけ、グループワークを通じたチームワークの重要性を理解する。また、就職に向けた活動方法の手順や実践的な対応方法について学ぶ。就職について、各自が目的や意義を十分に理解し、福祉専門職としての就労の意味を自分の言葉で発表でき、それぞれの職業観・就労観を身につけることを目標とする。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 介護福祉施設研修講師の経験を通して、介護現場に求められる人物像や期待される職業人像を伝えてることができる。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	就職とは何か、就職の目的や意義について、就労という視点から学ぶ。				
2	就職とは何か、福祉専門職における就職の意味 社会的な意味や職業観について学ぶ。				
3	コミュニケーション能力、グループワークを通して就労の目的・意義について各自が発表しグループでの意見集約を行う方法を理解する。				
4	コミュニケーション能力、グループワークを通して福祉専門職について各自の意見を発表しグループでの意見集約を行う方法を理解する。				
5	プレゼンテーション能力、グループワークでまとめた意見を、レジュメを作成し発表する力を身につける。				
6	ビジネスマナー、電話の受け応えや、受付での接受についての基本的対応やビジネススキルについて学ぶ。				
7	ビジネスマナー、電話の受け応えや、受付での接受についてシミュレーションを通して理解する。				
8	適性検査を通して、客観的に自己の性格や長所短所を自己分析する。				
9	就職先の情報収集方法、求人票からの読み取り、ホームページからの情報収集について理解する。				
10	課題文章の作成 テーマ「入学時の動機」				
11	課題文章の作成 テーマ「実習からの学び」				
12	課題文章の作成 テーマ「目指す介護福祉士像」				
13	課題文章の作成 テーマ「自己紹介・自己アピール」				
14	課題文集の作成 これまで作成した課題文章を文集として編纂し、成果の共有を行う				
15	まとめ これまでの学習の振り返りと、卒業年次に向けた就職活動について卒業研究発表会の聴講を通して就職への動機づけにつなげる。				
評価方法	授業内の課題40%、科目認定試験結果60%として、60点以上で合格。				
自由記述 (メッセージ)	この授業を通して、就職に向けた準備(ビジネスマナー・面接・作文)だけでなく、介護福祉分野への職業観を身につけてもらいたいと考えています。				



課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	就職実践演習Ⅱ		必修	2年前期	15コマ・30時間
担当教員	渡邊義昭	背景	専門学校・短期大学・大学等教育歴25年		
授業形態	共通ルール				
受講ルール	講義+演習	実務家教員 でない			
受講条件	介護福祉科2年生				
教科書等	ふくしのしごとがわかる本 社会福祉の手引き				
授業概要	一人ひとりの学生が、自分の将来を見据えて就職活動が出来るようになる。				
狙いと到達目標	就職活動準備シートを使用し、働くことに対するイメージを明確にし、模擬面接等を通して、実践力を身に付ける。現在の自分を見つめなおし、自分らしい働き方をイメージすることが出来るようになる。				
授業において実務経験をどのように生かすか	介護福祉施設研修講師の経験を通して、介護現場に求められる人物像や期待される職業人像を伝えてることができる。				
授業計画・内容					
1	就職実践演習オリエンテーション 目的、意義、進め方の説明。				
2	就職活動準備(作成準備)・求人情報シート1への記入 (入学動機、実習等から得られたもの、目指す介護福祉士)				
3	就職活動準備(作成)・求人情報シート1への記入 (入学動機、実習等から得られたもの、目指す介護福祉士)				
4	就職活動準備(作成準備)・求人情報シート2、3への記入 (希望就職先の種別、場所、運営方針等)				
5	就職活動準備(作成)・求人情報シート2、3への記入 (希望就職先の種別、場所、運営方針等)				
6	履歴書の書き方、自己紹介書の書き方				
7	面接試験について、心構え、面接時の注意事項				
8	リアル模擬面接のオリエンテーション(目的、意義)				
9	リアル模擬面接準備シートへの記入				
10	リアル模擬面接準備シートへの記入、当日の説明、注意事項				
11	リアル模擬面接の実施				
12	リアル模擬面接、フィードバック				
13	小論文の書き方、グループワーク				
14	小論文グループ発表				
15	まとめ 本講座の振り返り				
評価方法	授業内の課題40%、科目認定試験結果60%として、60点以上で合格。				
自由記述 (メッセージ)	この授業を通して、就職に向けた準備(ビジネスマナー・面接・作文)だけでなく、介護福祉分野への職業観を身につけてもらいたいと考えています。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	学習支援演習Ⅰ		必修	1年通年	30コマ・60時間
担当教員	渡邊義昭	背景	専門学校・短期大学・大学等教育歴25年		
授業形態	共通ルール				
受講ルール	演習	実務家教員 である			
受講条件	介護福祉科1年生				
教科書等	授業内で必要な資料を配布する				
授業概要					
介護福祉を学んでいく中で、授業科目に属さない社会の福祉問題に関する学びや、通常の授業において不足している領域を補い、学生一人一人が十分な学習や知識の習得を補償するために実施する。各教科に関する学習情報の提供や、学習方法の提示、学校からの情報提供など総合的に学生を支援し、多様な学習能力の学生に対して対応できるよう演習授業として、学習の機会を提供し学生の学習意欲を高めることを目的とする。					
狙いと到達目標					
学生への学習支援を目的とし、多様な学生に対応できるよう学習の機会提供、学習意欲の向上を目指している。また、グループワークを通して発言力・発表力や要約力を高める。この授業を通して学習計画、学習目標を自分でたて、学習習慣を身につけることを目標とし、自立学習できる力を養う。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
介護福祉施設研修講師の経験を通して、介護現場に求められる人物像や期待される職業人像を伝えることができる。					
授業計画・内容					
1	学習支援演習とは、学年運営について				
2	介護に求められる接遇とは、授業の受け方学び方				
3	4・5月の過ごし方、学習計画の立案				
4	入学後の振り返り、学生面談の進め方				
5	スポーツデイとは、意義目的・準備				
6	スポーツデイ準備、科目認定試験について				
7	スポーツデイ振り返り 実習Ⅰ-1に向けて				
8	実習Ⅰ-1終了後 記録の提出に向けて 山中湖キャンプについて①				
9	山中湖キャンプについて②				
10	山中湖キャンプ終了 夏祭り準備				
11	夏祭り振り返り				
12	介護のこころをあたためる① ビデオからの学び				
13	介護のこころをあたためる② 文献からの学び				
14	夏休みの過ごし方				
15	前期まとめ 学年運営目標振り返り ボランティア実践に向けて				
16	後期授業について 学年運営再確認				
17	基礎学習力① 聞く力、読む力、書く力、発表する力について				
18	基礎学習力② 聞く力、読む力、書く力、発表する力について				
19	基礎学習力③ 聞く力、読む力、書く力、発表する力について				
20	基礎学習力④ 聞く力、読む力、書く力、発表する力について				
21	基礎学習力⑤ 聞く力、読む力、書く力、発表する力について				
22	基礎学習力⑥ 聞く力、読む力、書く力、発表する力について				
23	介護のこころをあたためる③ 実習に向けて				
24	介護のこころをあたためる④ 現代の福祉課題について				
25	介護のこころをあたためる⑤ ライフプラン・ライフステージについて				
26	冬休みに向けての課題(グループワーク)				
27	冬休みに向けての課題共有(グループワーク)				
28	進級に向けて 国家試験とは				
29	後期学習の振り返り、前期・後期の学びについて総括 ボランティア活動				
30	まとめ 2年次及び卒業就職に向けたスケジュールと目標設定について				
評価方法	授業内の課題40%、科目認定試験結果60%として、60点以上で合格。				
自由記述 (メッセージ)	この授業を通して、介護福祉士としての基盤と介護観のみならず、グループワークを通じた学習の在り方を学びます。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	学習支援演習Ⅱ		必修	2年通年	30コマ・60時間
担当教員	品川智則	背景	介護福祉士職歴5年		
授業形態	演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	授業内で必要な資料を配布する				
<b>授業概要</b> 学びへの意識の維持向上を目指すと共に働く上で必要な知識・考え方を身につける為に学習支援を実施する。また、学校生活を円滑に行う上での、情報提供及び、国家試験の対策講座を設ける。					
<b>狙いと到達目標</b> ・基礎科目や実習、様々な学びを統合させ、介護福祉士として必要な知識・価値観、振る舞い等を考えることが出来る。 ・グループ学習・自主学习を通し国家試験に合格に向け、積極的に取り組むことが出来る。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 介護福祉現場における臨床経験を生かし、介護現場に求められる人物像や期待される職業人像を伝えていきたい。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	新年度オリエンテーション				
2	実力確認試験				
3	実力確認試験、スポーツデイに向けて				
4	スポーツデイ準備				
5	スポーツデイ振返り、国家試験練習問題				
6	国家試験練習問題				
7	国家試験練習問題				
8	国家試験練習問題				
9	夏祭りに向けて				
10	夏祭り準備				
11	夏祭り振返り・第1回模擬試験にむけて				
12	模擬試験(午前の部)				
13	模擬試験(午後の部)				
14	介護のこころをあたためる				
15	前期まとめ・夏休みの過ごし方・実習Ⅱに向けて				
16	後期学習オリエンテーション、実習Ⅱにむけての準備と心構え				
17	実習Ⅱ-2にむけて・実習での学び確認				
18	実習Ⅱを終えて、今後のスケジュールについて				
19	介護のこころをあたためる				
20	国家試験集中対策講座				
21	国家試験集中対策講座				
22	国家試験集中対策講座				
23	国家試験集中対策講座				
24	模擬試験に向けて				
25	冬休みに向けて				
26	冬休み明けオリエンテーション				
27	卒業研究発表会に向けて、国家試験集中対策講座				
28	国家試験集中対策講座				
29	国家試験の答合わせ及び卒業に向けて、卒業オリエンテーション				
30	2年間を振り返ってのまとめ、卒業研究発表会に向けて				
評価方法	授業内の課題40%、科目認定試験結果60%として、60点以上で合格。				
自由記述 (メッセージ)	国家試験対策、様々な行事への取り組みなどグループで実施する。				